

「羅生門」の構造

目的
目標

「文字として書かれていないこと」を読み取れるようになる。
「羅生門」の主人公「下人」がどのように変化したか、次の表現をもとにしてみんなが自分の言葉で説明できるようにする。

「羅生門」の主人公「下人」は物語の中で（A《どのような？》）子供から、（B《どのような？》）大人に（C《いつ？》）の時点で成長した。

A 物語の冒頭部で、下人の幼さ（まだ大人ではない様子）が表れている表現を見つけなさい。

B 物語の結末部で、下人はすでに大人になっているのだが、何を以て「大人」と言えるのか？

C 下人が「子供」から「大人」へと変化した時（一文または一会話）を抜き出しなさい。

頁 行目

D 「羅生門」では、「大人になる」ということは、どういうことだと描かれているか？

物語の構造とは？ とてもシンプルだ。次の一文に尽きる。

登場人物が「旅」をして、「逆転」する。

「旅」とは…… 本当の旅だったり、心の中で思いをめぐらせることだったり、時間が過ぎたり、闘ったり、悩んだりなど、様々な場合がある。
 「逆転」とは…… 今まで劣勢だったものが優勢になったり、その逆だったり、「悪」だったものが「善」になったり、その逆だったり、わからないことがわかるようになったり、など、争いや戦い、葛藤により、《旅立ち》と《結末》では、立場が変化することをいう。

具体例・「水戸黄門」

